

2010年3月期決算概要

ルネサス エレクトロニクス株式会社

2010年5月11日

代表取締役会長 山口 純史
代表取締役社長 赤尾 泰

© 2010 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

00000-A

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2010年3月期の決算概要および
新会社ルネサスエレクトロニクスの経営目標について
ご説明させていただきます。

I. 2010年3月期 決算概要

旧NECエレクトロニクス

旧ルネサス テクノロジ

ルネサス エレクトロニクス(旧2社単純合算)

II. 新会社の経営目標と統合初年度の取り組み

こちらが本日のご説明内容の表題でございます。

**まず、旧NECエレクトロニクスの2010年3月期の業績に関しましては、
ご報告いたします。**

**次に、旧ルネサステクノロジの2010年3月期の業績概要、および
旧2社の合算として、新会社ルネサスエレクトロニクスの昨年度業績を
ご報告いたします。**

**最後に新会社の経営方針と統合初年度の取り組みについて
ご説明いたします。**

I. 2010年3月期 決算概要 ～旧NECエレクトロニクス

【サマリ】

それでは、スライドに沿ってご説明してまいります。
旧NECエレクトロニクスの2010年3月期 決算概要でございます。

2010年3月期 決算の概要

- 第4四半期は売上高、営業損益ともほぼ想定どおり増収増益
- 通期の売上高は大幅減収となったものの、固定費削減により損益は改善

2010年3月期						
(単位：億円)	第4四半期	前四半期比	前年同期比	通期	前年度比	予想比
売上高	1,318	+139	+459	4,710	△796	+90
半導体売上高	1,261	+129	+450	4,519	△740	+49
営業損益	△30	+63	+501	△492	+172	△17
経常損益	△53	+60	+525	△544	+218	△29
当期損益	△24	+119	+617	△564	+286	+26
1US\$=	90円	0円高	1円高	93円	8円高	3円安
1ユーロ=	128円	5円高	8円安	132円	14円高	2円安

(注) 本資料の旧NECエレクトロニクスの業績は日本会計基準で作成しております。

まず、実績のサマリでございます。

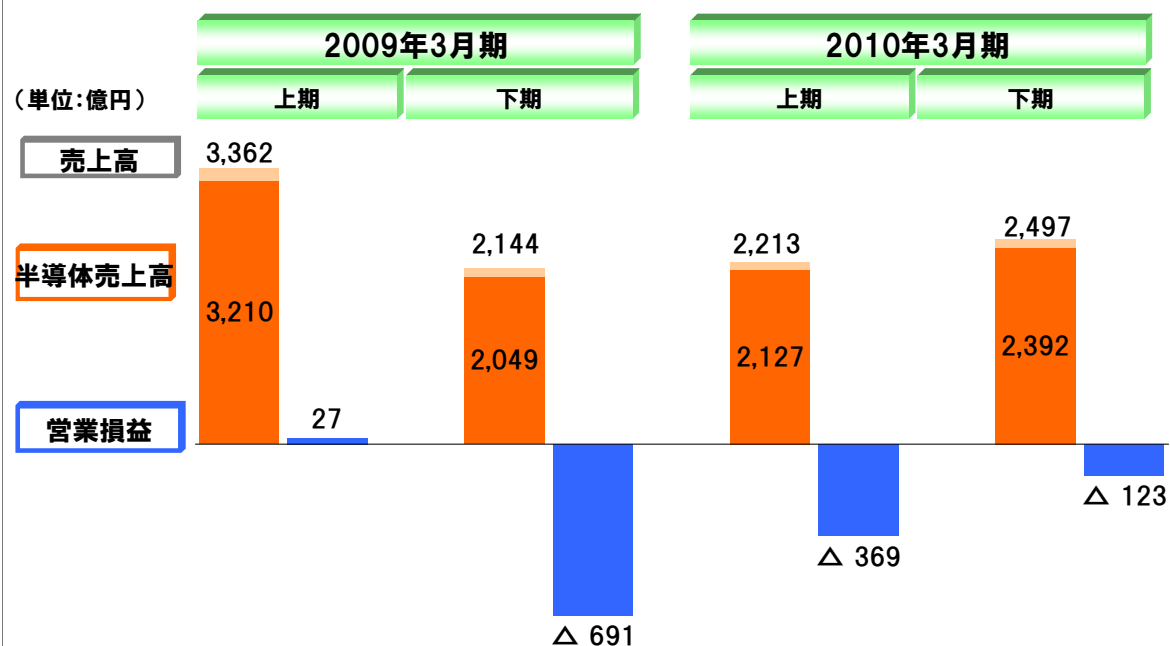
2010年3月期の半導体売上高は、前年度との比較で740億円減収の4,519億円となりました。

営業損益は492億円の損失で、前年度比では172億円改善となりました。

経常損益は、544億円の損失、
当期損益は564億円の損失となりました。

半期別業績推移

■ 2009年3月期下期をボトムに半導体売上高、営業損益とも継続改善



5 © 2010 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

次に、半期ごとの業績推移でございますが、リーマン・ショック後の市況悪化の影響を大きく受けた2009年3月期下期から、売上高・営業損益ともに改善しております。

I. 2010年3月期 決算概要 ～旧NECエレクトロニクス

【第4四半期】

それでは2010年3月期の業績概要をご説明いたします。
まず、第4四半期の業績について、簡単にご説明いたします

第4四半期(1-3月期) 半導体売上高(前四半期比)

- 第3四半期から11%増収となった。事業別では全分野で増収を達成
- 特にSoCで、EMMAを中心とするデジタルAV向けシステムLSIで大きく増収

2010年3月期				
(単位:億円)	第4四半期	前四半期比(%)		
半導体売上高	1,261	+11%	事業別売上概況	
SoC	431	+22%	SoC 【↑】:EMMAを中心とするデジタルAV向けシステムLSI	
MCU	437	+6%	MCU 【↑】:自動車向けマイコン、汎用マイコン	
個別半導体	393	+7%	個別半導体 【↑】:ディスクリート半導体、表示ドライバIC 【→】:化合物デバイス	

7 © 2010 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

7ページは第4四半期の製品群別の半導体売上高についてお示ししています。

第3四半期と比較して、半導体売上高は11%の増収、
事業別では、全ての製品群で増収となりました。

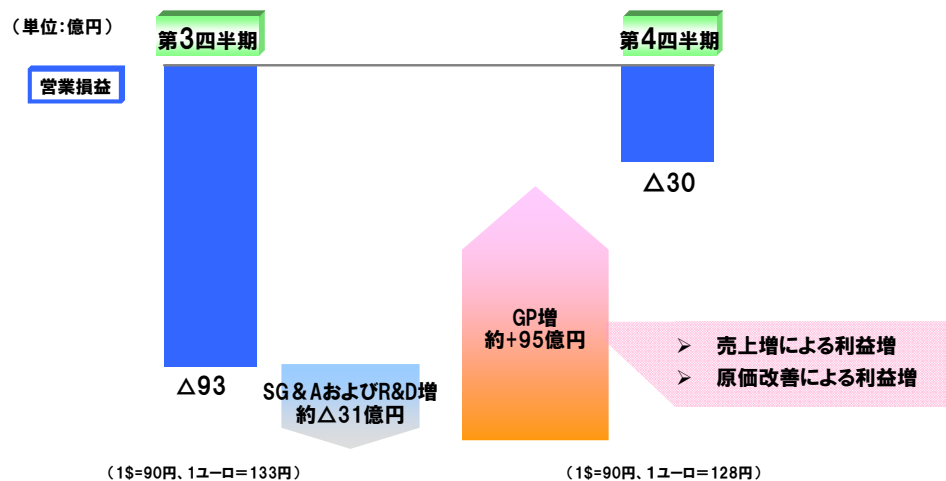
特にSoCにおいては、EMMAを中心とするデジタルAV向けLSIが好調であり、
前四半期比で22%の増収となりました。

MCUにおいては、自動車向け、汎用ともに堅調に推移しました。

個別半導体においても、ディスクリート半導体、表示ドライバICを中心に
堅調な売上となりました。

第4四半期 営業損益の主な増減要因

- 第4四半期の営業損益は、SG & AおよびR & Dの増加があったものの、売上増による利益増などにより、前四半期比で赤字幅改善



注 GP: 粗利益、R&D: 研究開発費、SG&A: 研究開発費除く販売費および一般管理費

8ページは、第4四半期の営業損益を前四半期と比較したものです。

この第4四半期は、販売費および一般管理費など費用の増加があったものの、売上増による利益増、原価改善による利益増により、営業損益は63億円改善し、30億円の損失となりました。

I. 2010年3月期 決算概要 ～旧NECエレクトロニクス

【通期】

次に、2010年3月期通期の業績概要についてご説明いたします。

2010年3月期 事業別売上高推移

- MCUは、自動車向けマイコンの需要が急速に回復したため増収
- SoC、個別半導体は、市況の影響を大きく受け減収

2010年3月期				
			通期	前年度比(%)
(単位:億円)				
半導体売上高	4,519	△14%	事業別売上概況	
SoC	1,614	△28%		
MCU	1,491	+4%		
個別半導体	1,414	△11%		
			SoC 【↓】:民生機器向けLSIを中心に大幅減収	
			MCU 【↑】:自動車向けマイコン、汎用マイコン	
			個別半導体 【↓】:全般的に減収	

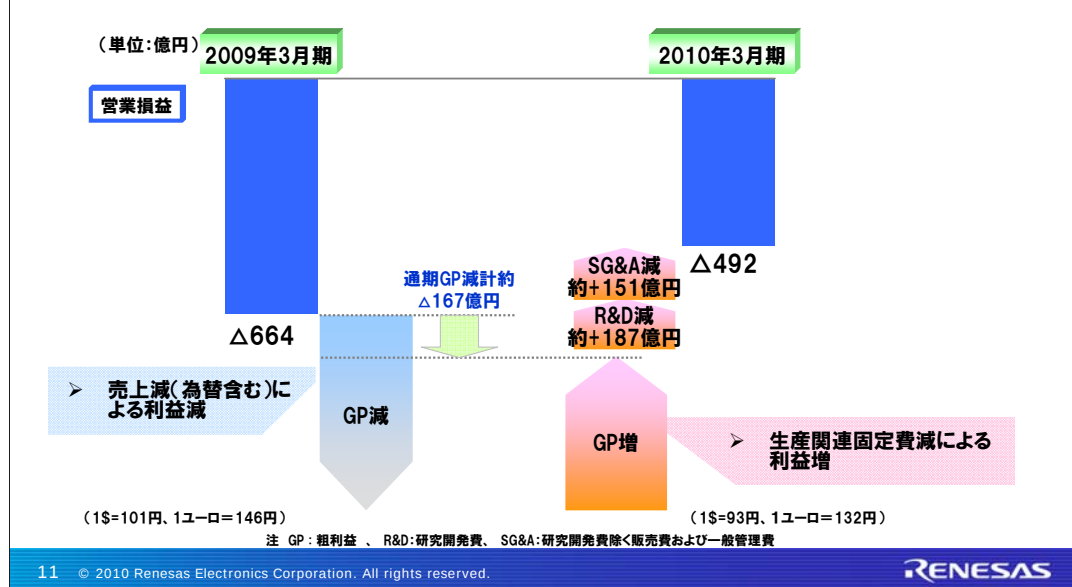
10ページは2010年3月期の製品群別の半導体売上高についてお示ししています。

前年度比で、半導体売上高は14%の減収となりました。

MCUにおいては、自動車向けマイコンの需要が急速に回復したため前年度比増収となったものの、SoC、個別半導体においては市況の影響を大きく受け、減収となりました。

2010年3月期 営業損益の主な増減要因

- 2010年3月期は前期比大幅減収となったものの、固定費削減を行ったことにより、営業損益は改善



11ページは、2010年3月期の営業損益を前年度と比較したものです。

前年度比で売上高が大きく減少したことに伴う利益減があった一方、昨年度の目標であった固定費の削減施策を遂行したことにより、営業損益は172億円改善し、492億円の損失となりました。

バランスシート

(単位:億円)	09/3	09/12	10/3
総資産	4,882	4,699	4,599
うち 現金及び現金同等物	1,013	956	912
うち たな卸資産	632	571	570
負債合計	2,935	3,319	3,236
うち 有利子負債	1,113	1,418	1,409
株主資本	2,024	1,483	1,459
純資産合計	1,947	1,380	1,363
D/ELレシオ(グロス)	0.59倍	1.06倍	1.07倍
自己資本比率	39%	29%	29%

注 ①現金及び現金同等物:「現金及び預金」、「有価証券」 ②たな卸資産:「商品及び製品」、「仕掛品」、「原材料及び貯蔵品」
 ③有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「リース債務」、「新株予約権付社債」、「長期借入金」
 ④自己資本:「株主資本」、「評価・換算差額等」 ⑤D/ELレシオ(グロス):有利子負債/自己資本

12ページは、バランスシートでございます。

2009年12月末から大きな変更はございません。

DEレシオは1.07倍、自己資本比率は29%となりました。

キャッシュ・フロー

■ 2010年3月期下期のフリー・キャッシュ・フローは黒字を確保

(単位:億円)	2009年3月期		2010年3月期	
	下期	年度計	下期	年度計
営業活動による キャッシュ・フロー	△265	△82	201	63
投資活動による キャッシュ・フロー	△257	△491	△175	△422
フリー・ キャッシュ・フロー	△523	△572	26	△360

13ページは、キャッシュ・フローでございます。

2010年3月期下期においては、営業活動によるキャッシュ・フローが改善したことにより、フリー・キャッシュ・フローが黒字となりました。

以上が、旧NECエレクトロニクス 2010年3月期業績の報告でございます。

次ページ以降から、旧ルネサステクノロジの業績をご報告いたします。

I. 2010年3月期 決算概要 ～旧ルネサス テクノロジ

**旧ルネサステクノロジ 2010年3月期決算概要を
スライドに沿ってご報告いたします。**

2010年3月期 決算の概要

- 2009年3月期後半以降の需要激減等の影響により前年度比では大幅減収
- 2010年3月期後半からの工場稼働率の回復、固定費削減施策等が奏功し、赤字幅は縮小

(単位:億円)	2009年3月期	2010年3月期	前年同期比
売上高	7,027	5,998	△1,029
半導体売上高	5,640	4,974	△666
営業損益	△966	△640	+326
経常損益	△1,028	△709	+319
当期損益	△2,033	△813	+1,219
1US\$=	101円	93円	8円高
1ユーロ=	143円	131円	12円高

まず、業績の概要でございます。

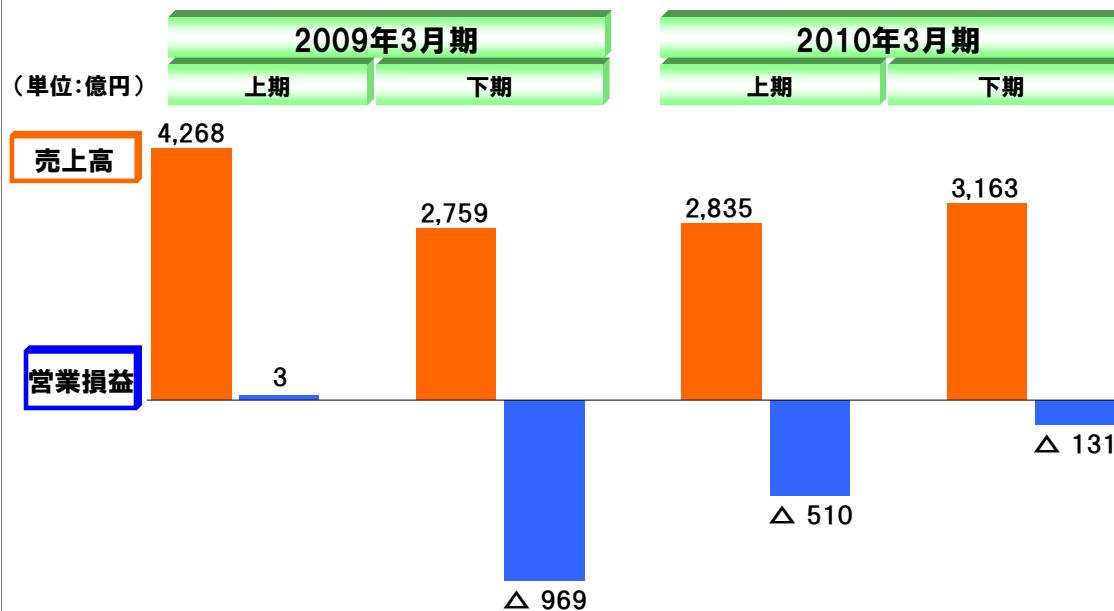
2010年3月期の売上高は、前年度との比較で
1,029億円減収の5,998億円となりました。

一方で、営業損益は、前年度比では326億円改善し、640億円の損失となりました。これは、昨年度の目標であった固定費削減施策を遂行した結果によるものです。

経常損益は、709億円の損失、
当期純損益は813億円の損失
となりました。

半期別業績推移

- 2009年3月期後半をボトムとして売上は回復基調を維持
- 種々の構造改革施策や需要回復による工場稼働率の向上により営業損益も改善傾向



16 © 2010 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

次に、半期別業績推移でございますが、グラフにもお示ししておりますとおり、2009年3月期後半をボトムとして、売上高は回復基調を維持しております。

営業損益におきましても、様々な構造改革施策の実行や市場回復に伴う工場稼働率の向上により、改善傾向にあります。

バランスシート

(単位: 億円)	09/3	10/3
総資産	6,829	6,109
うち 現金及び現金同等物	1,066	1,109
うち たな卸資産	1,053	801
負債合計	5,060	4,441
うち 有利子負債	2,838	2,313
株主資本	1,801	1,704
純資産合計	1,769	1,668
D/ELレシオ(グロス)	1.60倍	1.40倍
自己資本比率	26%	27%

注 ①現金及び現金同等物:「現金及び現金同等物」、「定期預金(3ヶ月超)」、「有価証券」
 ②有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「長期借入金」
 ③自己資本:「株主資本」、「評価・換算差額等」
 ④D/ELレシオ(グロス):有利子負債/自己資本

17ページは、バランスシートでございます。

2009年3月期との比較におきましては、

資産合計は、720億円減少の6,109億円となりました。これは、下期からの需要増に伴う在庫の減少や設備投資の抑制による固定資産の圧縮によるものです。

負債は、借入金の返済等により約620億円減少の4,441億円となりました。

株主資本は、813億円の当期損失を計上したものの、日立製作所、三菱電機からの増資により、97億円減少の1,704億円となりました。

DEレシオは1.4倍、自己資本比率は27%となりました。

キャッシュ・フロー

■ 2010年3月期下期のフリー・キャッシュ・フローは黒字を確保

(単位：億円)	2009年3月期		2010年3月期	
	下期	年度計	下期	年度計
営業活動による キャッシュ・フロー	△178	△63	271	183
投資活動による キャッシュ・フロー	△427	△892	△192	△347
フリー・ キャッシュ・フロー	△606	△955	79	△164

18ページは、キャッシュ・フローでございます。

2009年3月期には、大幅な収支赤字となりましたが、
2010年3月期下期は、営業活動によるキャッシュ・フローが改善したことにより、
フリー・キャッシュ・フローは黒字を確保いたしました。

I. 2010年3月期 決算概要 ～ルネサス エレクトロニクス（旧2社単純合算）

**次に、新会社ルネサスエレクトロニクスの2010年3月期業績概要について
ご報告いたします。**

**尚、ご報告する内容は、旧NECエレクトロニクスと旧ルネサステクノロジの過去業績を単
純合算したものととなります。**

2010年3月期 決算の概要

旧NECエレクトロニクスと旧ルネサス テクノロジの実績単純合算

(単位:億円)	2009年3月期	2010年3月期	前年同期比
売上高	12,162*	10,624*	△1,538
半導体売上高	10,746*	9,409*	△1,337
営業損益	△1,630	△1,133	+497
経常損益	△1,790	△1,253	+537
当期損益	△2,884	△1,378	+1,506

(注)この合算値に使用している旧ルネサステクノロジの「売上高」および「半導体売上高」については、合併における会計処理の変更の影響により、本プレゼンテーション資料の15頁の該当数値と異なっております。

20ページは、ルネサスエレクトロニクスの業績概要でございます。

2010年3月期の売上高は、1兆624億円であり、前年度比1,538億円の減収となりました。

半導体売上高は、9,409億円であり、前年度比1,337億円の減収となりました。

一方、利益面では、

営業損益は、前年度比497億円改善し、1,133億円の損失、

経常損益は、537億円改善し、1,253億円の損失、

当期損益は、1,506億円改善し、1,378億円の損失となりました。

Ⅱ. 新会社の経営目標と統合初年度の取り組み

次に新会社の経営目標、および今年度の取り組みについてご説明いたします。

経営目標

- 統合初年度より営業黒字化を目指す
- 必要な構造改革を統合の初期段階に集中して取り組み、2年目には当期黒字化を目指す
- 中期的な営業利益率(売上高比)は2桁を目指す

まず、ルネサスエレクトロニクスの経営目標でございます。

22ページにお示しておりますとおり、

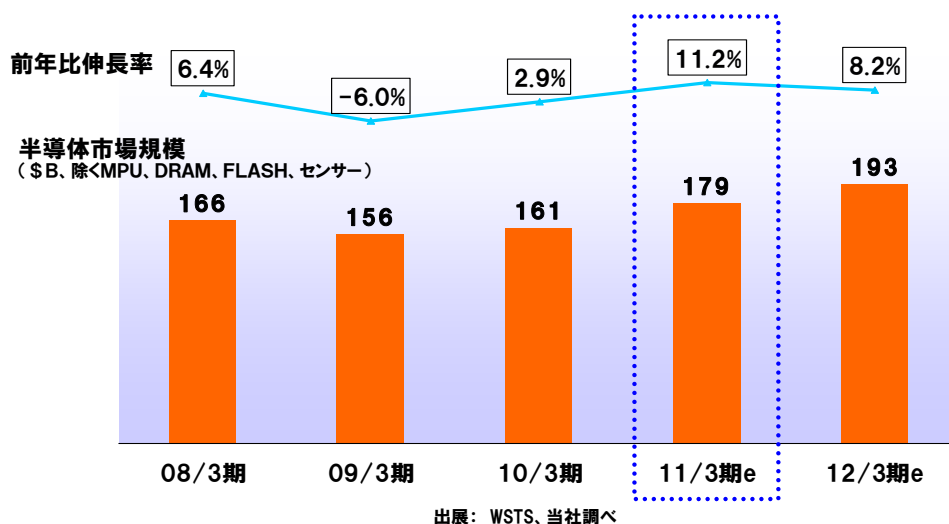
ひとつめに、市況の回復による業績改善、統合効果による経営効率化などを推進し、統合初年度より営業黒字化を目指します。

ふたつめに、強固な経営基盤を構築するために必要な構造改革を、統合の初期段階に集中して取り組み、来年度には当期黒字化を目指します。

最後に、持続的な売上成長と安定的な収益性を確保し、中期的には営業利益率2桁%を目指します。

経営環境 ー半導体市場見通し

- 2011年3月期は堅調な機器生産を反映、部品需給の逼迫傾向も続き、成長が加速
- 成長傾向は2012年3月期も続き、半導体業界にとっての追い風は継続



23 © 2010 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

23ページは、半導体市場の見通しについてお示ししております。

統合初年度にあたる2011年3月期は、当社のエンドマーケットである産業機器、自動車、携帯電話、民生機器などの分野が堅調に推移すると想定されます。

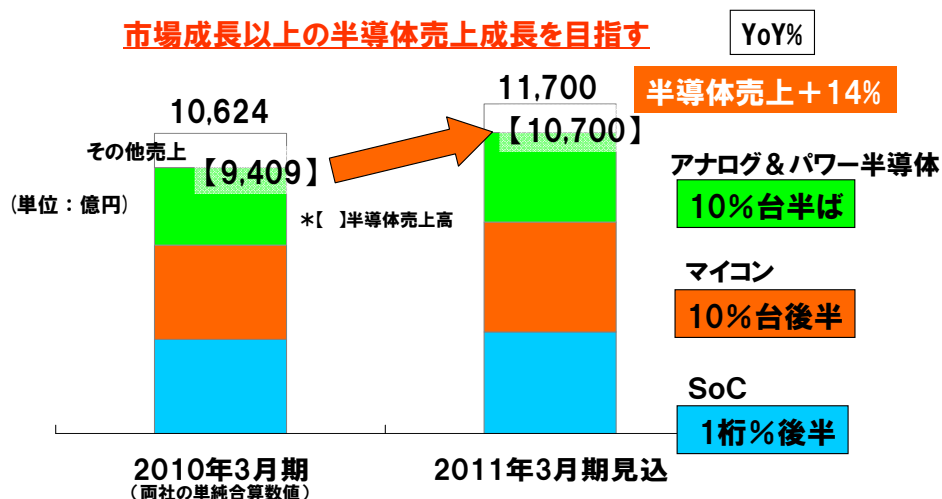
また、半導体の強い需要が続いており、当社製品が該当する半導体市場は前年度比で約11%の成長を見込んでおります。

半導体市場は来年度も成長傾向にあると想定しております。

市場成長以上の半導体売上高へ

- 事業機会の拡大(圧倒的な世界No.1シェアのマイコンをコアコンピタンスに、アナログ&パワー半導体との事業シナジーを追求)
- 海外市場向け売上高の拡大

市場成長以上の半導体売上成長を目指す



24ページは、当社の今年度売上見通しでございます。

まず、事業機会の拡大として、世界シェア1位のマイコンを軸に、アナログ&パワー半導体との事業シナジーを追求し、売上拡大を目指します。

また、海外市場向けの売上高を拡大し、今年度の半導体売上高は1兆700億円、前年度比約14%の増収とし、市場以上の成長を見込んでおります。

今年度の具体的な重点取り組み

～短期取り組みの先に**中長期体質強化**を見据えて～

1. 事業機会の拡大
→ **製品競争力の強化**
2. 海外事業拡大への布石
→ **海外半導体売上比率60%超へ**
3. 即効性あるコスト低減
→ **コスト競争力の強化**
4. **TOPダウンによる構造改革推進**

**「100日プロジェクト」で具体的施策を検討し、
シナジーの早期具現化と体質強化を目指す**

次に、今年度の具体的な重点取り組みについてご説明いたします。

まず、事業機会を拡げ、売上の拡大を図ります。さらに、選択と集中により、中長期的には製品競争力の強化を図ります。

2番目に、海外における事業拡大に向けた体制を構築します。中長期的には、海外半導体売上比率を高めてまいります。

3番目に、コスト構造を徹底的に見直し、即効性のあるコスト低減を推進します。中長期的にさらなるコスト競争力の強化を目指します。

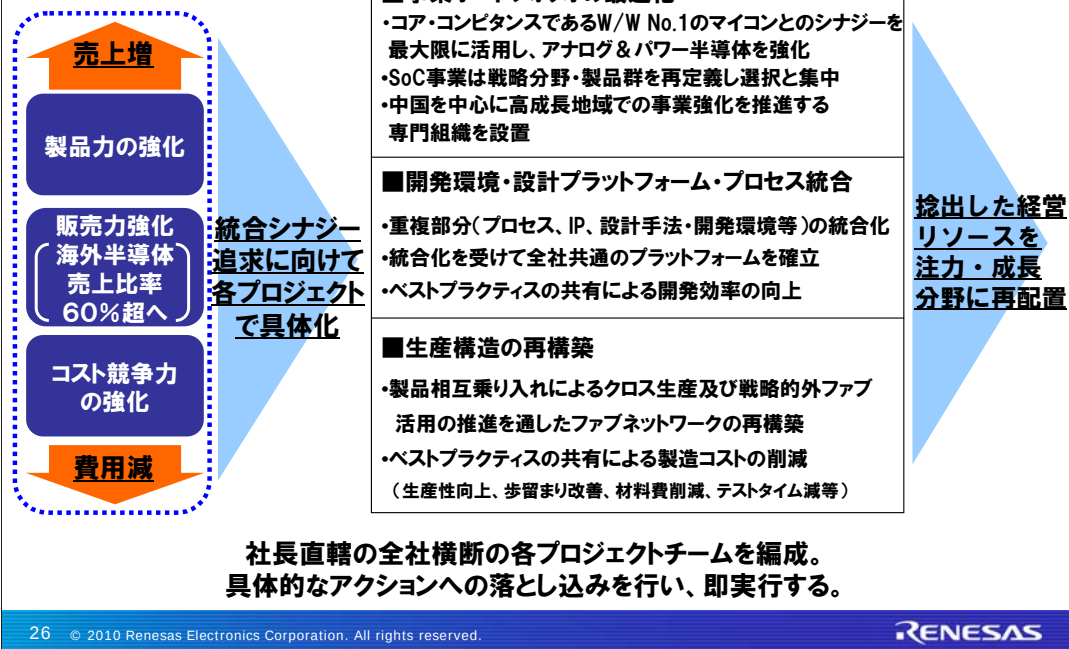
また、トップダウンによる構造改革推進として、体質強化に必要となる、ありとあらゆる施策を検討、実行してまいります。

これらの具体的施策は、私がリーダーとなり、発足させた全社横断プロジェクトチームによって検討中であります。

全社横断プロジェクトチームによる「100日プロジェクト」の概要は次のとおりです。

「100日プロジェクト」の概要

- 全社を挙げて統合シナジーを追求し、継続的な利益が確保できる経営・事業基盤の強化を図る



26 © 2010 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

まず、「100日プロジェクト」で検討する課題として、大きくは

- ・事業ポートフォリオの最適化
- ・開発環境、設計プラットフォーム、プロセスの統合
- ・生産構造の再構築

がございます。

事業ポートフォリオの最適化には、アナログ&パワー半導体の強化、SoC事業の選択と集中、中国を中心とした高成長地域での事業強化を推進する専門組織の設置などが含まれます。

開発環境、設計プラットフォーム、プロセス技術の統合に関しては、重複部分の統合化や全社共通のプラットフォームを確立、またベストプラクティスの共有による開発効率の向上など、開発効率の抜本的改善と各種開発費用の削減を追求いたします。

生産構造の再構築においては、製品相互乗り入れによるクロス生産や戦略的な外ファブ活用など、新会社の製品ポートフォリオに最適なファブネットワークを再構築するとともに、ベストプラクティスの共有による製造コスト削減を追求いたします。

これらを含む、ありとあらゆる経営課題が、全社横断プロジェクトチームによって今まさに検討されており、今後具体的なアクションへの落とし込みを行い、即実行へと移します。

2011年3月期 業績見通しについて

- 当社は、現在、統合後100日間を目処に当社の新しい方針を具体化するという「100日プロジェクト」を実行中であり、また、合併にあたり、被合併会社である株式会社ルネサス テクノロジの資産および負債の時価評価が現時点（2010年5月11日）では未確定です。
- これらの理由により、現時点において業績予想の策定が困難な状況であることから、2011年3月期通期の連結売上高を除き、2011年3月期の連結業績予想値は開示しておりません。
- なお、業績予想値につきましては、2011年3月期第1四半期決算発表時に公表する予定です。

最後に、当社の2011年3月期の業績見通しについてご説明申し上げます。

当プレゼンテーションでもご説明いたしましたとおり、当社は、現在、新しい方針を具体化するという「100日プロジェクト」を実行中であります。

また、合併にあたり、被合併会社であるルネサステクノロジの資産および負債の時価評価額が今日現在では未定でございます。

これらの理由により、現時点において業績予想の策定が困難な状況であることから、通期の連結売上高を除き、2011年3月期の連結業績予想値は開示しておりません。

なお、業績予想値につきましては、第1四半期決算発表時に公表する予定でございます。

皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。



(将来予測に関する注意)

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、戦略および業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、(1)ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるルネサス エレクトロニクスのグループ製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてルネサス エレクトロニクスグループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

ルネサス エレクトロニクス株式会社

© 2010 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

2010年3月期の決算概要のご説明は以上でございます。
本日は有難うございました。